

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2021

2

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 1月誌上句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会 12月句会報	23
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	29～

カンテラ

むせし

年が明けても新型コロナウイルスが猛威を振るい続け、11都府県に緊急事態宣言が出された。そんな中、当柳社で活躍された中道文子さんと齋藤あまねさんの訃報が届いた。

心よりご冥福をお祈り申し上げる次第である。

川柳人口が減少する中でのお二人の他界はまことに残念。合掌

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

もつすこし見ていたい夕暮れの電車 村上てる
 前頭葉不足がちです塩コシヨウ まきこ
 焦げるほどビート効かせて低気圧 宮井いずみ
 抱きしめて地球を楽にしてあげる 芝岡かんえもん

B群

お別れの仕草でしょうか枝を折る 米山明日歌

ひとり静さん、「バス」は「かなしみに触れないように」来るのだから初めて知りました。バスを待っている間になさしいことを思っても、バスが来ると目的地のことに心が動いてかなしみを忘れてしまうということでしょうか。それとも、バスは乗ろうとしている人のかなしみを感知してやってくるということでしょうか。バスというものの見方が変わりました。

優劣をタワシと競い合っている

石橋芳山

返り点ばかりつけてる日記帳

柳本恵子

過去帳を辿ればあふれ出るヤモリ

葉 閑女

月に濡れ雪に濡れてもまだわたし

吉田州花

長女という付箋の下が痒くてさ

村井規子

脇腹に住まわせている石ひとつ

まみどり

永遠も絶対もない瓶と蓋

守田啓子

六十五 切り取り線を越えました

三浦蒼鬼

強情をこんなところじゃ使わない

齋藤泰子

齋藤泰子さんは「強情」などところが全くない方のようにお見受けしていました。「強情」は「意地をはり通すこと。頑固で自分の考えを変えないこと。意地っぱり。」(広辞苑第七版)「強情」などところを見せない泰子さんだけれど、「強情」などところは確かにあるってことですね。そうでなくっちゃ。

C群

MRIこんなところにチェ・ゲバラ 小野五郎
 氣に入ったポンコツ屋から届く義手 田久保亜蘭

またしても懺悔のあとの洗い物 鳴海賢治
 下処理をしないでだしたフグの声 渡邊こあき
 捨てられた便器コロリと他殺体 奈良一艘

小野五郎さん、「MRI」検査をされましたか。私も大腸癌と喉頭癌を患ったとき体験しました。「チェ・ゲバラ」は、言わずと知れたキューバ革命の指導者ですが、もろん比喩ですね。「MRI」検査をしたら、体内がゲリラ戦のような状態だったということでしょうか。「チェ・ゲバラ」の「チェ」は、「やあ」「おい」「お前(親しみを含めた)」「ダチ」といった砕けた呼び掛けの言葉で、ゲバラが初対面の相手にしばしば「チェ。エルネスト・ゲバラだ」と挨拶していたことから、キューバ人たちが「チェ」の発音を面白がり付けたあだ名、とウィキペディアに載っていました。ところで五郎さん、体内のゲリラは早期に退治された方がいいですよ。

田久保亜蘭さん、まさか「義手」を装着しているんじゃないでしょうか。「義手」は、広辞苑によると「欠損のある上肢機能を補うための医療器具」です。それが、「ポンコツ屋」から届くとはいいやはや。故障車、老朽車等を

修理して一見新品らしい車にして売る商売が「ポンコツ屋」だから、たぶん新品の「義手」ではないでしょう。でも、それがいい具合に使えれば言うことはありません。亜蘭さん、その「お気に入り」の「ポンコツ屋」にいい股関節はありませんか？

鳴海賢治さんは、「懺悔」をなさるんですか。「懺悔」を広辞苑第七版で引くと「さんげ」と「ざんげ」があつて驚きました。「さんげ」「懺悔」過去に犯した罪を神仏や人々の前で告白して許しを請うこと。↓ざんげ。『ざんげ』【懺悔】キリスト教で、罪悪を自覚し、これを神の前に悔い改め告白すること。』とあります。賢治さんは罪なんか犯しそうにない方ですからこの句の場合は「ざんげ」でしょうね。でも、なんで「懺悔」のあとに身を清めるのではなく食器類(衣類かな)を洗うんだろう。「洗い物」と「身を清める」は同じことなのかも…。(汗)

渡邊こあきさん、「フグの声」を出せるのですか？おなじょうき川柳社で長いこと一緒ですが、そんなことができる方とは今の今まで知りませんでした。「フグ」は、「不具」でも「不慮」でもなく、猛毒を持つ魚「河豚」のことでしょう？釣り上げられた「河豚」は、膨らんでプープー

とかチキチキとか鳴いて、それは歯を擦り合わせて出しているらしいですね。「下処理」は、主に料理の下準備として行う処理のことで、下ごしらえとも言いますね。ということは、我々がいつも聞いているこあきさんの声は「下処理」済みの声で、時に「河豚」の声になることもあるんだね。いきなり聞くと驚くだろうな。

奈良一艘さん、この句の「捨てられた便器」と「他殺体」は並列に置かれているんですね。つまり、「捨てられた便器」＝「他殺体」ということですよ。一艘さんが住んでいる町に「便器」の捨てられているところがあるのかな…。この句の「便器」は、金隠しのある和式のもの？それとも、洋式？あるいは小便器？「ゴロリ」とつて、何となく洋式のような気がするけど…。捨てられた便器を見て他殺体を思う一艘さんの感覚って前人未踏だね(笑)でも、便器を見て「他殺体があります」なんて110番してはいけませんよ！私は、数十年前に金隠しに唐草模様が施された和式便器をある方からいただいた、今も大事に保管しています。あれは「他殺体」じゃないよね(汗)

おなじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅1月月間賞

アラレ降る三角コーン立ち上がる

渡邊こあき

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

吹雪いててうまく眉毛が描けません
暇な店 加減乗除で日が暮れる
遊びたくなつてガラス戸を開ける
どこにでもいそいでいない猫さがす
幸せな窓に近づき暖をとる

先月号のお気に入り
弟は逝った たばこと猫残し
これ刺さりませす
齋藤泰子

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

ゴスペルを歌う三枚目の舌で
カピバラを産み続けている昼下がりに
捨てられた便器ゴロリと他殺体
日曜の尻尾はイブリガツコの
性欲はないが妄想癖モッコリ

先月号のお気に入り
とるとるは善か悪かでもめている 葉 閑女
ととるとるはまだチヨイ悪。どととるとるならもう極悪決定。(笑)
笑

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

いつもうしろをふりかえるまごひまご
マスクするどつちを裏にするべきか
よく誤嚥をする よく水分をとる
いつかはひとりぐらし軟骨減つた
またしても懺悔のあとの洗い物

先月号のお気に入り
競売物件その3. 七十歳の下半身
その発想がおもしろい。
奈良一艘

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山田市】

その後を聞かない耳は鳥になる
人の目はほとんど何も見ていない
くちびるは二年先までわかるのか
今という深さに印つけましよう
かなしみに触れないようにバスが来る

先月号のお気に入り
先攻でどうぞと瓶のふたが言う
瓶のふたは余裕あるんですね。
熊谷冬鼓

まきつゝ【まきこ・青森県青森市】

したり顔の展示はここでいいかしら
性悪の尻尾一本捜索中
中傷誹謗どつさり背負う昼の月
前頭葉不足がちです塩コショウ
ぽきぽきぽきつ何もしないと決めたのに

先月号のお気に入り
夜の街ずんずん進む赤信号
え？え？え？の三連発です。さすが州花さん、御見それ
しました。
吉田州花

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

脇腹に住まわせている石ひとつ
ストレスを食いものにして成長期
簡単に放り出せない義理人情
付き合っていくしかないがだがしかし
雪どけを待っても見つからぬ行き場

先月号のお気に入り
結論が出ない熱燗もう一本 葉 閑女
ね。……んなわけないでしょう、一升瓶ここに置いときます

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

切羽詰まってからの私となさぬ仲
立ち往生の先に蕾がひとつある
発酵の途中に吊るすエビデンス
気分転換します根雪を吐きなさい
六十五 切り取り線を越えました

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

手榴弾なくし檸檬をポケットに
林檎から影絵の小人飛びだして
焦げるほどビート効かせて低気圧
大笑いすればピンピンコロリ券
楽しけりやいいのランタンフェスティバル

先月号のお気に入り
両掌から零れるものはみな零す
そういう潔い生き方をしたいのです
吉田州花

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

ロッキーのテーマまだ鳴る大丈夫
夢に出た線香花火が「同じだよ」
初日の出泣くなくなくとオレンジが
怒りつて生きる気力の名前だよ
長女という付箋の下が痒くてさ

先月号の
お気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

生んだのはヒト育つたのはモンスター
3周目のコロナまだ増殖中
菅のミクスは医療崩壊させただけ
正月は小原庄助になりましょか
カレー粉で騙されている腐敗臭

先月号の
お気に入り

御破算にしようか二〇二〇年 葉 閑女
同感です。本当に2020年は破算にしたい！

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

弥陀に命を委ねて祈る日々
蓮満開色即是空空即是色
日記書く秋の夜長の一人ぼち
秋風に吹かれ私は雲になる
もうすこし見ていたい夕暮れの電車

先月号の
お気に入り

いたずらに駆け抜けてきた日としても まみどり
まさに実感句で共感しました

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

踏ん切りがつかずずるずるの鯁呼吸
ゆうぐれのポッキー 肘で丸描けますか
尊厳の形に空気入れておく
永遠も絶対もない瓶と蓋
まとわりつくものあつてどうにか立っている

先月号の
お気に入り

するめつて幸せの時やわらかい 峯島 妙
するめをやわらかく感じる日が長く続きますように。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

はじまりは春の初めのころでした
日が暮れてかごめかごめが終わらない
返り点ばかりつけてる日記帳
誘惑の風が吹いたら逢いに行く
逃避行岬の先は白い海

先月号の
お気に入り

矢印が集まってきて鳥になる 守田啓子
迷わずに飛べるのは、矢印持ってたんだ。鳥は。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

勝てません妻と雪だるまの笑顔
冷蔵庫作動また僕呼ばれてる
如月の窓から冬を逃がします
雪溶けの音のリズムで書く手紙
雪えくぼ必ず春はやつてくる

先月号の
お気に入り

苦労性でした本家の嫁でした 土田雅子
年老いた母は施設ですが、じーんときました。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

宰相というだけ神ではありませんぬ
秋田にもいい人いっぱいいるのにな
過去帳を辿ればあふれ出るヤモリ
知らぬ間に損傷してた半月板
凍て空へ聞かせる坊がつる讃歌

先月号の
お気に入り

柳界にモーツァルトがいて頭痛 村井規子
どうして頭痛なんだろう。天才だから？2021年はモーツァルト没後230年ですよ。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

誕生日こんな生きて待つ冬至
雪つもる静かさ雪雲のどまんなか
窓は切り絵の大雪注意報
月に濡れ雪に濡れてもまだわたし
折れやすきあばら骨持つ年女

先月号の
お気に入り

ハルジオン枯らした人を捉まえた 夏草ふぶき
その方を紹介してください ハルジオンに手を焼いているのです

吉田吹喜

【よしだふぶき・青森県弘前市】

風邪をひく小さな三角形になる
とりあえず言葉の群れに埋もれて
勢いでやってみるか：とはいえない
こんな時飲んで逃避ができたなら
積雪ゼロ墓場はとてにぎやかで

先月号の
お気に入り

下ばかりみると見えない青い空 村上てる
ずっと下ばかり見た。青い空を見ようと思いました。
サンキユウです

吉見恵子

【よしみけいこ・青森県青森市】

変容の世に降る雪のつがくは
調和する不協和音を組みたてて
生き死にはかない美こそ「鬼滅」の美
青増してカウントダウンの冬火花
シクラメンの赤なお赤く冬ごもり

先月号の
お気に入り

一円玉 涙の色をもっている 芝岡かんえもん
納得です。鋭い。

安藤なみ

【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

銃口を向ける空には神がいる
柚子風呂の湯気で手を打つテンペスト
どうぞココロ紙風船は雪の上
ノンフィクションの血まみれ汗まみれ
パソコンが流星群を吐いている

先月号の
お気に入り

眠れないので雲を配達致します むさし
前の冬は降雪が皆無でした。今年は12月16日早くも雪が降る予定です。フ
クワク。雲の配達 青森の雲は雪とイコールと考えてを有難うございます。

石橋芳山

【いしばしほうざん・島根県松江市】

誘惑にころりココロ鹿のフン
瞑想の森へどつぷりちぢれ麵
行き先を宇治金時にはばまれる
優劣をタワシと競い合っている
微笑みにアンモナイトを産み落とす

先月号の
お気に入り

米山明日歌

【よねやまあすか・静岡県長泉町】

待っている蜥蜴の青に棲む人を
美しいノックの音を知ってから
いわし雲平熱という平らな日
立ち読みで終わったことにする真昼
お別れの仕草でしようか枝を折る

先月号の
お気に入り

誤読も誤差もなんて事無いライスカレー きささぎ彼句音
まったく同じ気持ちです。

渡邊こあき

【わたなべこあき・青森県青森市】

カメだからヒトより先に歩きだす
下処理をしないでだしたフグの声
ピカピカの新米古米はかなわない
先走るカラスが落とす福袋
振り出しに戻るサイコロふつちやつた

先月号の
お気に入り

だから何それぞれの冬見せあって 守田啓子
「あら不思議、春になりました」とはならないよね。

岩根彰子

【いわねあきこ・京都府京都市】

今一度浴びたい樹木希林の声
バターロールに好かれる今日の運勢
大まかに配る殻付きピーナッツ
シュノーケル銜え届いた蜜柑箱
ひび割れた空のリフォーム請負師

先月号の
お気に入り

「茶碗蒸しかしら」となりたいたいもの云々 米山明日歌
発想の柔軟さ、加えて、云うが、言うでない点。深々礼。

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

マスクからツンドラの風吹いてくる
イヌノフグリに囲まれて秘境の湯
流行り風邪身辺整理しておくか
臨月の肌理こまやかなネムリブカ
MRIこんなところにチェ・ゲバラ

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

知らぬ間に秋風がたつ一字空け
通過儀礼として受け流そう妬心
散るための力残して枯れなくちゃ
ジタバタジタバタ生乾きのまんま
咲くまでは友達だったモモ、サクラ

先月号のお気に入り
さよならの気配をさせる結び方
惹かれる作品ばかりで…
米山明日歌

熊谷冬鼓

【くまがいとうこ・青森県青森市】

小松菜の緑に添えるキノコのキ
正論は蓋する前のゴマ油
手袋の中では退屈な十指
足指のグーチョキグーチョキまだ立てる
新雪サクサク雪のにおいに立ち尽くす

先月号のお気に入り
わたくしに葉は喜んでまた放置
待ちぼうけをまるで読みかけの文庫本のような表現に惹かれた。
ひとは

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

令和三年囚われの身はまだ続く
安穩の空気に錆びる金時計
かみさんは揺るぎない節穴をもつ
青空はぎゅつと握ってつぶします
抱きしめて地球を楽にしてあげる

先月号のお気に入り
イマジジンがどんどん溜まる洗面器
奈良一艘
イマジジンと洗面器の組み合わせが面白い。しかし…どんな想像が溜まっていくのか。

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

湯たんぼの火傷が予定を狂わせる
たかが火傷されど火傷で動けない
バタバタと動けぬことの不自由さ
回復を待つて予定を練り直す
コロナ禍を横目に夫の三回忌

先月号のお気に入り
弟は逝った たばこ猫残し
しみじみと詠みました。どんな弟さんだったのかな
斎藤泰子

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

輪の中の金魚ぴちやりと飛ばす灰汁
省略の妙へ私が捨てられる
強情をこんなところじゃ使わない
あるときは撓んだ形見せておく
きつと滝も凍っただろろう喪のように

先月号のお気に入り
尻尾振るたびに真水が溢れ出る
こぼれ出るでも流れ出るでもなく「溢れ出る」というところに恐ろしさを感じました。
三浦蒼鬼

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

機関銃の筒から漏れる夕時雨
非武装の燃料棒を婿にする
あにはからんや今夜のボクはひとりもの
あのころはライオンだけが友だった
大雪につべこべ言うなホットドッグ

先月号のお気に入り

Sin

【しん・青森県外ヶ浜町】

雪轍 こうやって死んでいくんだろいな
てにをはをめちゃくちゃにしてめちゃくちゃにして
新型コロナってミ なつつかしいなあー
「バイデンが売電してる」と言う贖罪
遺伝子を弄って弄って弄り散らかして

先月号のお気に入り
靈感が無いから静か過ぎる部屋
斎藤泰子
大事な人を亡くしたら、きつこう思っただろうなあ。

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

松田さん下北沢で会いましょう
女装家のバッグにくしゃくしゃの辞表
おしゃべりな爺さん達のシンフォニー
ユーミンに負けない舌先のピアス
読みかけのページ スイス銀行から届く

先月号のお気に入り
一線を越えた背骨は柔らかい
ビフォー・アフター…一線は超えてみるもんですよね。
辻井洋子

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

心臓に産毛が生えている気迫
絶対に動かぬ捻子の自負がある
左遷地もいいトコだろう鶴も居る
起きてるの眠っているの魚の目
丁寧なたたんで恩を返したい

先月号の
お気に入り

ファンファーレは吹かぬラッパ屋の矜持 月波与生
い私たちに求められるのは諦めない「矜持」。いい言葉だね。木口小平は死んでも
喇叭離しませんでしたを連想。川柳人それぞれに矜持を保っているのです。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

標準のサイズで生きてきたパンツ
気に入ったポンコツ屋から届く義手
星空の星は僕だけ観ていない
少し右手を借りながら春を釣る
ホルモンの花火大会開きます

先月号の
お気に入り

父の絵を真っ赤に描く男の子 Sin
ボクの居間には背景も顔も見境ない赤で描かれた子供の
絵がある。真実は赤のみである。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

がむしやらに働いてきた無職だ(怒)
過去最多トゲが刺さってイガラツポ
竹槍ニツポン 竹串ニツポン
尊厳も抜けて一途に物旨し
クローンに適した部位がございません

先月号の
お気に入り

弟は逝った たばこと猫残し 齋藤泰子
これはタイトルで、全九句通してリアルに人間がいます。
人柄が読めます。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

本棚で競い合ってる五十音
哲学書入り込めない右の肩
走りきる万能ねぎのしなやかさ
伴走は寄り道できるカメがいい
巣作りのお手本何処に忘れたか

先月号の
お気に入り

水はけの悪い部位から黄昏る 熊谷冬鼓
前頭葉の水はけ良くする方法、ないかな。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

昨日まで息づいていた母の台所
交換日記片方遺し母のさよなら
逝くときはあつという間の冬の蝶
四十九日花を棄てられぬ母を捨てられぬ
仏壇の灯火母と呼応する

先月号の
お気に入り

喪の家に宅配便の響く声 齋藤泰子
我が家にも連日宅配便の音が響いています。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

午前2時両手が吹雪く目が吹雪く
小鼻の脇のコロナウイルスをどうするか
小惑星から届く無数の果たし状
おしゃべりは右手 左手は空っぽ
満月が落ちてくるのを待っている

川柳作品をお待ちしております。

■題「時事川柳」むさし選

時事川柳をひとり何句でも。郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ
下記へ投句して下さい。

【投句先】メール：aomori@yomiuri.com 「よみうり文芸」時事川柳係
ハガキ：〒030-0801 青森市新町 2-2-4 新町二丁目ビル6階
読賣新聞青森支局 「よみうり文芸」時事川柳係

【掲載】毎週火曜日 / 【賞】秀逸には図書カードを贈呈

読賣新聞

深艘心理

空き箱に詰め込む不確かな黄色

三浦蒼鬼

(会員雑詠集 無人駅12月号より)

黄色：ですか。えーつとえーつと(汗)
この句はまずは「黄色」というキーワードから読み解かなければ作者の意図するところが見えてはこないのだろう。

ネットをググってみると色々な黄色がヒットする。例えば、黄信号などという要注意的な危険性。或いは中国の皇帝や日本の皇族に見る高貴な色としての黄色(メントくさい説明は省くが、敬虔・神聖の意)や、黄色い嘴などとも言われる経験の浅さや幼さ。また、光や知性、喜びを表す「太陽」の色：等々、さまざま黄色があるようだが、掲句の黄色を仮に黄信号とすれば、老後の不安やコロナ禍の未来を案じている句ともとれるが、たぶ

んそんな安っぽい句ではない。この中では「太陽」の色だとする黄色が最も近いのではないだろうか。いや、そうとりたいたいものだ。更にそれに「幸せの黄色いハンカチ」にみるような希望や幸福という要素が加われば作者の言わんとするところが自ずと見えては来まいか。

つまり、今はまだ定かでは無い老後の光と幸せを、現実の厳しさに屈することなく、希望という箱に詰め込んでそれを是とするしかない。と、作者はいま敬虔な祈りを捧げている最中なのだ。うむ。
ワイルド?でアバウトな解釈だが、「深艘心理」的にはこれでいいのだ。



家にいよう

▼投句者(43名・到着順)

宮井いずみ(大阪府)	むさし(青森県)
城後朱美(福岡県)	吉田吹喜(青森県)
尾崎良仁(千葉県)	青砥和子(愛知県)
石橋芳山(島根県)	奈良一艘(青森県)
斉尾くにこ(鳥取県)	夏草ふぶき(青森県)
いなだ豆乃助(埼玉県)	芝岡かんえもん(神奈川県)
安藤なみ(愛知県)	坂本清乃(青森県)
柳本恵子(奈良県)	まきこ(青森県)
吉松澄子(愛媛県)	紫の園(東京都)
三好光明(愛知県)	きさらぎ彼句吾(青森県)
米山明日歌(静岡県)	葉 閑女(青森県)
峯島妙(大阪府)	鳴海賢治(青森県)
須藤しんのすけ(青森県)	守田啓子(青森県)
旅男(青森県)	田久保亜蘭(青森県)
村井規子(青森県)	熊谷冬鼓(青森県)
岸井ふさ糸(大阪府)	まみどり(青森県)
四ツ屋いずみ(北海道)	ひとは(青森県)
寺川 弘一(大阪府)	三浦蒼鬼(青森県)
郷田みや(愛媛県)	村上あつこ(青森県)
岩根彰子(京都府)	笹田隆志(青森県)
小沢史(東京都)	徳長 怜(徳島県)
西沢葉火(長野県)	

おかじょうき川柳社

1月ステイホーム誌上句会

宿題『手』

千葉県船橋市 尾崎良仁選

【佳作】

ありふれた手にもあふれる物語
握りしめてるソープランドの出勤表
またねって手を振るさくら吹雪かせて
封切れば獣の臭いする手紙
ケペル先生の手袋踏んじやいけません
寒い日はテテテテつとルビを打つ
人は人と出会い手は手に合っている
自画像も私も下手な笑い顔
生命線か皺かワタシもわからない
あの手この手実はまだある内ポッケ
空に雲わたし叱られ上手です
曲がった指が語る母の生きた道
前期高齢祈る手がまだ元気でず
手鏡の中で逢い引き繰り返す
墓洗う母に似ている手が洗う

齊尾くにこ
須藤しんのすけ
齊尾くにこ
米山明日歌
守田啓子
郷田みや
齊尾くにこ
ひとほ
奈良一艘
吉田吹喜
まきこ
村上あつこ
三浦蒼鬼
ひとほ
柳本恵子

済んだことにします小さく手を振って
合掌のかたちで袋とじは開けよ
最初はグー遊んで欲しいと言えなくて
解ったと母が隠した手の震え
まだ握力が落ちぬ落ち椿の未練

吉松澄子
奈良一艘
熊谷冬鼓
熊谷冬鼓
きさらぎ彼句吾

【五客】

手帳から蒼い男が立ち上がる
恋々切々 手話も修羅になる
訣別の夜に消毒する両手
いざという時に右手はグーでした
母の手に触れるやさしくなれそうで

むさし
きさらぎ彼句吾
石橋芳山
郷田みや
城後朱美

【人位】

私の彼は手袋噛んで脱ぐ

徳長 怜

【地位】

手垢ついた札束は数えない

田久保亜蘭

【天位】

どんな日も握り続けていた夕陽

守田啓子

◆ベランダから夕陽を見ている。そういえば夕陽っていつも呼び捨てにしているね。これからは夕陽さんって呼ぼうかな。夕陽さん、明日もこの時間に惨めな私に声をかけてくださいな。夕陽さん、またあした。◆

宿題『低い』

鳥取県北栄町 齊尾くにこ選

【佳作】

肉体の影みな低くして月夜
低温やけどさせる言葉ねあの人ね
低温で熟成干からびた恋は
病院の体温計は信じない。
背伸びした踵が好きと言っている
カロリーの低い話はしつこくて
偏差値がなんだ青魚は嫌い
高所恐怖症だった低い鼻
言葉の使い古した舌ざわり
低いドが夢を潰しにやってくる
孤独こじらせ低温のまま
肩よりも低い頭をひと齧り
タラリ冷や汗 下線引かれたところは嘘
首筋のあたりの爆弾低気圧
不承不承コントラバスでYESと言う

米山明日歌
宮井いずみ
小沢史
村井規子
徳長 怜
青砥和子
まみどり
ひとほ
須藤しんのすけ
芝岡かんえもん
きさらぎ彼句吾
夏草ふぶき
きさらぎ彼句吾
むさし
四ツ屋いずみ

低温でじつくり揚げるケモノ偏

むさし

低血圧のカポータイを道連れに

いなだ豆乃助

土下座より低い姿勢がありますか

寺川弘一

底辺を見ようとしない独裁者

寺川弘一

すり鉢の底から星を撃ち落とす

むさし

【五客】

重低音おぶって今日も終電車
低所得でもね夜空が美しい
モラルハザード品格なんてきざみ葱
精神科 床を這いずるピアノ曲
令和3年低温殺菌せし

芝岡かんえもん
尾崎良仁
石橋芳山
旅 男
岩根彰子

【人位】

頼れない腰も頭も低すぎて

まみどり

【地位】

平伏したアサリに命じたのは、飛べ

西沢葉火

【天位】

やさしさは通奏低音のような

吉松澄子

◆【人】低姿勢な方にもつと自然体でと、低すぎると寄りかかれぬ◆【地】何があったのか平伏しているアサリ。えっアサリ。庶民的アサリへ鳴に成れと大空へ飛んでいけ◆【天】受け取る優しさ、差し上げている優しさ、どちらでも通奏低音。優しさは通奏低音でありたい。見えないようにけれど深く低くあなたの中に流れている◆

宿題『自由詠』

青森県弘前市 奈良一艘選

【佳作】

税込みで俺を買ってはくれまいか
傷口を見せないように薔薇は咲く
加湿した部屋の揺らぎへ過去未来
真つ白なサブリミナルに垂らす黒
交差点に取り残された深海魚
流水になかにし礼と飛ぶカモメ
闇の奥から風船乗りが来てしまう
一両になつて北へと向かう汽車
覚え書きによれば純情らしいです
ワタクシを除菌シートが消していく
伸びきつて輪ゴムは春へ脱皮中
老眼性乱視の沼で鰓呼吸
危険日の星座占い第六位
国産化脳髄分離独立系
欲動に片翼だけの鶴を折る

尾崎良仁
米山明日歌
斉尾くにこ
石橋芳山
村上あつこ
峯島 妙
む さ し
米山明日歌
吉松澄子
熊谷冬鼓
安藤なみ
守田啓子
須藤しんのすけ
いなだ豆腐助
石橋芳山

十和田たてがみ川柳会12月句会

【参加者】 漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・
斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳記・
村上昌子・高田幸柳

【投句者】 磯島雅男・城後朱美

■席題『やんわり』

【平抜き】

借金を断る口調はやんわりと
寄り添ってやんわり受ける胸の声
やんわりと年賀やりとり断った
初めての出会い笑顔でやんわりと
やんわりとかぶさってきた脛かじり
やんわりと冗談めかして叱られた
クレームをやんわりかわす経験値
やんわりと断れなくて悩み増え

久保あざみ 選

佐藤まさあき
木村奈生美
斉藤 蛙井
漆館ミノリ
斉藤 蛙井
斉藤 蛙井
高田 幸柳
福田 芳記

非常事態宣言僕が乾いている
カタカナの朝だトースト焦げている
汲んでやる水の事情に濡れていく
添い寝ならワインレッドになさいます
つぶ餡が神であろうとなかろうと

三浦蒼鬼
夏草ふぶき
旅 男
吉松澄子
尾崎良仁

湯豆腐の極悪的な崩れ方
泳いでも泳いでもお前という夜空
封筒に入れる致死量の星くず
なりゆきで月を看取っているところ
この傷は夕陽を踏んだときのもの

ひと は
む さ し
徳長 伶
吉松澄子
小沢 史

【人位】
カナリヤがよく啼く夜の2ページ目

米山明日歌

【地位】
続編は冬の苺に決めました

郷田みや

【天位】
剥がすとき付箋は海をみたがった

徳長 伶

◆【人位】夜にページがあつたとは知らなかつた。それも2ページ目とは、いかにもカナリアの啼きそうな微妙な時間帯が詩的に響く◆【地位】大量に需要のある冬の苺が、愛されたいと願う作者の強い願望だとすれば少し切ない◆【天位】人間に出会いと別れは付きもの。それがかりそのめ、たとえ付箋のような出会いとしての運命だったとしても海のような深い碧きに変わりはしないはずなのである◆

やんわりと亡母の想い出生きている
修羅越えた眼差しとても柔らかい
犬猫の冬毛さすれば気持ちよい
穏やかに切り出す貴方怖くなる

高田 幸柳
高田 幸柳
高田 幸柳
高田 幸柳

【秀逸】
一言が柔らかい輪にして呉れる

木村奈生美

【特選】
やんわりと生きたい辛い今だから

高田 幸柳

■席題『やんわり』
【平抜き】
借金を断る口調はやんわりと
寄り添ってやんわり受ける胸の声
やんわりと年賀やりとり断った
やんわりと断れなくて悩み増え
一言が柔らかい輪にして呉れる

瀧尻 善英 選

佐藤まさあき
木村奈生美
木村奈生美
木村奈生美
福田 芳記
木村奈生美

やんわりと生きたい辛い今だから
穏やかに切り出す貴方怖くなる
やんわりと亡母の想い出生きている
やんわりと冗談めかして叱られた

高田 幸柳
村上 昌子
高田 幸柳
齊藤 蛙井

【秀逸】

犬猫の冬毛さすれば気持ちよい
流星に会ってハートもぽよんぽよ

福田 芳記
村上 昌子

【特選】

クレームをやんわりかわす経験値

高田 幸柳

■宿題 『やり遂げる』

高田 幸柳 選

【平抜き】

おまじない千里の道も一歩から
句作りへやり遂げ辞書が擦り切れる
やり遂げて流れる汗の甘辛さ
やり遂げる汗に明るい明日がある
やり遂げて男の夢に花が咲く

漆館ミノリ
木村奈生美
齊藤 蛙井
木村奈生美
齊藤 蛙井

やり遂げたアルバムどれも無我夢中
ようやっと青の洞門光見え

磯島 雅男
佐藤まさあき

哲医師の思いを遂げた用水路
はやぶさが地球に届ける玉手箱
精一杯男の海を泳ぎ切る

福田 芳記
佐藤まさあき
瀧尻 善英

午前二時折り紙の鶴出来上がる
やり遂げて見ればデコボコ道ばかり

城後 朱美
磯島 雅男

【秀逸】

やり遂げた老母を拾った軽い骨
やり遂げて重い責務の荷を降ろす

瀧尻 善英
齊藤 蛙井

【特選】

空蟬のいのち大事に消費する

瀧尻 善英

■宿題 『やるせない』

木村奈生美 選

【平抜き】

はらわたが煮えくりやるせない人事
やるせない気持ちを癒やす冬銀河

瀧尻 善英
磯島 雅男

■互選 『やる気』

- ①三密を避ける夫婦のデイスタンス 久保あざみ
- ①ほめそやすやる気引き出す子は伸びる 福田 芳記
- ②うちの孫やる気ボタンはどこにある 佐藤まさあき
- ②満を持しやる気スイッチONにする 高田 幸柳
- ②魯山人越えてみせるぞ暖簾分け 瀧尻 善英
- ②悩む子の元氣引き出す裏メニュー 高田 幸柳
- ②たわいないおしゃべりまだまだやる気みせ 村上 昌子
- ③まだ夢がある幸せの眼鏡掛け 瀧尻 善英
- ④夜十時やる気のペンが走り出す 木村奈生美

■十和田たてがみ川柳会2月句会案内

【時】2月20日(土) 午前10時から 【所】十和田労働
福祉会館 【宿題】(各題三句詠) 『よほよほ』高田幸柳
選 / 『予兆』木村奈生美選 【互選】(二句詠) 『余裕』
当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】一題
(二句詠・共撰) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一
名 【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-1
21 十和田労働福祉会館 高田幸柳あて

【特選】

城後 朱美

やるせない気持ち払って前を向く
泣いて泣き全て良かった事にする

佐藤まさあき
瀧尻 善英

【秀逸】

毎日がコロナ更新やるせない

磯島 雅男

失恋の痛手に呷る苦い酒

佐藤まさあき

やるせない想い畳んだ胸の内

齊藤 蛙井

やるせないコロナ禍の下稼ぎゼロ

齊藤 蛙井

金時間無き国民は引きこもり

漆館ミノリ

微笑んでばかりの母を見る介護

瀧尻 善英

やるせない思いが詰まる相聞歌

福田 芳記

やるせない本音は云えず文を出す

高田 幸柳

ため息の数だけ募るやるせない

高田 幸柳

川柳吟行会「ぽ」11月句会『横』

熊谷冬鼓

新型コロナで吟行が難しくなり投句に変えたのは去年の3月。悲しいかな収束どころか最近は大が止まらない。投句に変え会員以外の方にも呼び掛けたことで参加者は倍増し句会に幅ができた。ただどうしてもメールでの送配信では一方通行感が否めない。そこで今年集まれる人だけでも集まって合評会をすることにしました。勿論コロナ対策を十分にしつつ状況を見ながらだが。

【8点】特×4

水平線になりたい時もあるのです 守田啓子

【妙】どこにも力を入れず、水のようにだらうつとしたい気分共感します。水平線が特に清潔感があり綺麗な句です。
【恵子】横を全く使わない表現がいいですね。【冬鼓】「時も」に緊迫感はないので、雑事を離れひねもすのたりのたりかなの心境か。水平線がいい。【美映】垂直をキープするのは疲れますからね。

【隆志】よこしまな釘を孕んだら、しかも素数として、考えただけでも恐ろしい【妙】「釘」「素数」「孕む」と豪華な引き付け言葉の連打にノックダウンです。【紫の園】曲がった釘、斜めな釘をよこしまと言い、それを仲間に入れるのを素数と表現したところに驚かされる。

酔の匂い横断幕の切れっ端 笹田かなえ

【一艘】横断幕はおそらくデモのスローガン。酔の匂いというからには相当な年月を経ている。全学連の切れっ端でもまだ作者は引き摺っているのだろうか。【彰子】下5の切れっ端に治まりの良さを感じた。【冬鼓】風化した横断幕に酔の匂いを感じた独自性に1票。

【4点】佳×4

どんぐりは気づいていない横並び まみどり

【こあき】どんぐりの背くらべがこういう句になるなんて！
【紫の園】どんぐりの背比べと言うが、そのどんぐり自身はそれを知らない。その逆転の発想が面白い。【五郎】諷刺とユーモアに溢れている。【州花】このどんぐりは多分0型

【3点】特×1・佳×1

アベノハルカスから横井庄一がぼたり 奈良一艘

【7点】特×2・佳×3
横にいるオトコが春でうつつうしい 滋野さち

【五郎】「オトコが春で」という表現が独創的で面白い。【まみどり】空気を読めない人が張りついているのは危険です。
【文音】「春」がいいですね。【旅男】のろけですね。春おとこ、貴重ですよ。【州花】男って隣の女の不機嫌に気づけない。

【4点】特×2

再起動の真横にぶらり蜂屋柿 守田啓子

【まみどり】せっかくな調子できたのにフリーズしては再起動の繰り返し。こちらの焦りや苛立ちとは裏腹に澄ました干し柿。対比が面白いですね。【さち】ころ柿の産地近くの女川原発再稼働が認められた。福島と同じ型でしかもすぐ近くでの災害を忘れてしまったのだろうか？

【4点】特×1・佳×2

よこしまな釘を素数として孕む 奈良一艘

【啓子】あべのハスカル美術館？と横井さんの取り合わせが絶妙。「戦争」は忘れないでほしいとのメッセージか。旧日本兵横井さんの記念館を見に行きたい。【五郎】取り合わせの妙味。「ぼたり」がきている。

スタートライン手を繋いではいけません 小野五郎

【こあき】「スタートライン」と「手を繋ぐ」で横が鮮明に。本当は、手を繋いでスタートラインに立ちたいのです。【まみどり】仲良く一緒にでは向上しません、親しき仲間にも：の気持ちがないと。

横糸に希望折り込むタペストリー 吉見恵子

【紫の園】横糸の色で横様が織り込まれていき、想っているようにタペストリーを作っていく行程に希望がある。重ねて人生をも創り上げていく希望も詠っている。【文音】「希望」の硬さから気魄を感じました。

なすカボチャ胡瓜の横に飾られる 熊谷冬鼓

【州花】みんな主役でなんか良い。コロナに感染しようがしまいが関係なく人は人、私は私【かなえ】これは遺影？でも出演の野菜の力で、なんかほのぼの。

ひどい寝癖だ横並びの白菜

岩根彰子

【かなえ】(笑)。白菜のクシャクシャしたところを「寝癖」に見立てた作者の慧眼に拍手！「ひどい」、「横並び」にも白菜愛が溢れている。【一艘】作者はディーサービスでの昼寝起きの自身を合わせ鏡のように覗いているのかも知れない(笑)白菜の寝癖が言い得て妙だ。

【2点】特×1

横書きを返してみたら薄っぺら 峯島妙

【彰子】裏返したらさもありませんと頷いた。題に対して発想が素晴らしい。

野地蔵の横のママコノシリヌグイ 滋野さち

【いずみ】ママコノシリヌグイを地藏様の横に咲かせるだけで遠野物語にしてみました。

ぬくもりが伝わりますか横の亀

福田文音

【旅男】浮浪雲のおカメさんが浮かびました、美人じゃないが良い妻。夫？妻？。寝てるが如くいる人ですね。きつと伝わっています。

その村に横溝正史の指の墓

小野五郎

【一艘】句に人名を読み込むのはかなり難しい。大した意味性はないが、横溝正史のおどろおどろしい世界が広がる。

横にそれ沸騰してる長電話

渡邊こあき

【旅男】電話だと時々堰が切れるんですね。

横穴式石室あたりの痒いもの

岩根彰子

【啓子】控え室的なものはむず痒いものなのでしょうね。出しゃばってははいけません。

恋の呼吸 キンモクセイが横に立つ

笹田かなえ

【文音】金木犀が片仮名なので粋な紳士の立ち姿が見えました。上五が少し気になりました。

よこしまは右に動いたエレベーター

峯島妙

【冬鼓】よこしまの不遜感をうまく表現している。

シャッター通りに横座りするうつた姫 宮井いずみ

【啓子】シャッターは閉まって真冬。最近多いですね。冬の女神のせいでしたか。ガッテン！

【2点】佳×2

アメ横でジングルベルを買い占める 笹田隆志

【いずみ】クリスマス気分を大人買いするならやつぱりアメ横。【かなえ】「横」で「アメ横」がいい。ただ、何でジングルベル？

タテタテココヨコ 母になつてしまっ 吉田州花

【妙】いつの間にか母と同じ体型やしぐさになつていた！コ罗纳禍で特に刺さります。【隆志】こんなふうに母になるのですか、男にはわからない

銀杏はらはら別れ言葉は横書きで 宮井いずみ

【隆志】別れ言葉を縦書きでなく横書きなんてロマンチック【美映】夏の恋あるある。

【1点】佳×1

横隔膜を鍛えて嘘をつきとおす 宮井いずみ

【さち】嘘を突き通すには胆力と筋力が必要です。

定年を待つて切ります横の糸 旅男

【恵子】勢いよくすっきり切れますよ。

本年は横に這わせる豆のつる 吉田州花

【こあき】豆のつるは、空へ空へと伸びたかったでしょうに。

巡り会う覚悟はあるか横歩き まみどり

【彰子】切っ先を突きつけられた。横歩きに哀愁が漂う。

横のひと手を離したら飛んでいく 旅男

【さち】そうです。最後まで連れ添いましょう。フフ

コンビニのレジ横にいる樹木希林 笹田かなえ

【いずみ】樹木希林は普段着の似合う稀有な女優だった。

横丁の隠居の役に倦んでいる 小野五郎

【恵子】横丁で、苦虫を噛み潰したような絵が見えて面白い。

横丁で立ち飲みしてる飲んだくれ 笹田隆志

【美映】ん？誰か呼びました？

■会費拝受【12月受付分】 ※太字は新会員

柳本恵子・ひとり静 (以上奈良県) / 斎藤泰子 (秋田県) / 小林茂子 (岡山県) / 岩根彰子 (京都府) / 葉閑女・守田啓子・まきこ・前田悠遊・熊谷冬鼓・齊藤恵子・小野五郎・滋野さち・横山キミア・前輝・土田雅子・渡邊静子・吉田州花・佐藤節子 (以上青森県) / 笹田かなえ (八戸市) / きさらぎ彼句吾 (弘前市) / 高木保子・三浦ひとは (以上黒石市) / 鳴海賢治 (つがる市) / 柳谷たかお (外ヶ浜町) / むさし・ひらく・坂本清乃 (以上蓬田村)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社
→会費：6,000円 (1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759
〒039-3502 青森市久栗坂浜田 87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆2度目の緊急事態宣言が発出された。1回目の緊急事態宣言時にも私は不思議に思っていたのだが、青森県の感染状況からして、緊急事態宣言が出ている時のほうが安心して動けるはずである。感染流行地域の人は動かなくなるし、こっちからも流行地域に行きづらくなる期間だからだ。だが、こちらの人もなんとなく宣言中は自粛し、解除になってから動こうとする。どちらかと言えば、青森県にとっては、解除後が一番危ない時期なのだ。私からしてみれば、感染したくないのか、感染したいのか、わからない不思議な行動に映る◆昨今、ワクチン接種がなんとなく見えてきたが、そのワクチンを打ちたくない

人が30%もいるとか。ワクチンには予防効果がないというフェイクニュースを信じているのかもしれないが、感染予防、重症化予防の観点からも、重度の副反応が出る確率(0.0001%)とコロナに感染して死ぬ確率(2%)を比べても、ワクチン打って感染しないほうが、特に高齢者は絶対がいいと思うのだが…◆たぶん今後は、句会・大会の参加条件なんかに、ワクチン接種証の提示を求められることだって考えられるし、持っていないと入れない施設等も出てくるような気がする。自分自身に基礎疾患がないかどうか確認して、積極的にワクチンは打ちたいと思うし、勧めたいとも思う◆ Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2021.02.10 「川柳吟行会 ぼ」2月句会

【投句締切】2月10日(第2水曜日)【題・投句数】「鬼」3句【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *吟行不可につき投句による句会とします。参加者全員による選・選評をメールで交換。後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならどなたでも参加可。

□ 2021.02.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(4月号分)

【締切】2月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)、柳号、住地【掲載】4/10発行号【提出先】moriko@okajoki.com 守田啓子宛【ネットからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html

□ 2021.03.05 おかげょうき川柳社本社3月句会

【投句締切】3月5日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『無』青砥和子(愛知県)選/『長い』河野潤々(北海道)選/『自由詠』むさし(青森県)選【投句先】moriko@okajoki.com (守田啓子)【ネットからの投句】http://www.okajoki.com/toku/ 郵便・FAXでの投句不可 ■会員以外の方も参加可、掲載号呈、住所・方書き明記(住所記載がない場合は掲載号の発送できません)/投句フォーム利用時は席題欄に住所・方書き明記

□ 2021.03.10 「川柳吟行会 ぼ」3月句会

【投句締切】3月10日(第2水曜日)【題・投句数】「別」3句【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *吟行不可につき投句による句会とします。参加者全員による選・選評をメールで交換。後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならどなたでも参加可。



2021年2月10日発行(年12回発行) 第25巻第2号通巻323号
 ●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかじょうき川柳社●表紙題字/金子榮風
 青森県東津軽郡外ヶ浜町宇蟹田中師宮本2の3 ●TEL&FAX:0174-22-2119 ●E-Mail:info@okajoki.com

おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者 (2句詠・共選)

題：『舟』

2/28 〆切

選者

藤田めぐみ (東京都)

奈良一艘 (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、今回より郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。<送信先アドレス：moriko@okajoki.com>

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。